



北山宮―上北山村小椋で



(所在地) 上北山村小椋807
(祭神) 北山宮(後亀山天皇玄孫)
(交通) 近鉄吉野線・大和上市駅か
らゆゆうバス河合下車。

徒歩約15分
(拝観) 境内自由
(駐車場) 有り。無料
(電話) 07468・2・0124

北山宮 (上北山村)



北山宮は、上北山村小椋の大台ヶ原を源流とする小椋川の左岸に鎮座します。旧県社で、吉野神宮(吉野町)の境外摂社でもあります。祭神の北山宮は後亀山天皇の玄孫(孫の孫)とされ、自天王または尊秀王とも呼ばれます。後南朝の歴史を彩る人物として知られます。

室町時代の1392

(元中9)年、南北朝合一のあと、自天王がこの地区の瀧川寺に三種の神器の一つ神璽(勾玉)と共に住み、後南朝の復興を念願していました。神社の由緒書、「赤松記」などによると、自天王は1457(長祿元)年12

月2日、赤松家再興を目指す残党によって殺害されました。地区の人たちは神璽とお首を奪い返し、ご遺体は瀧川寺に埋葬しました。その後、自天王を慕う人たちが現在地に祠を造営して祭ったのが北山宮の始まりとされます。北山宮の鳥居をくぐる

と舞殿、その奥に拝殿、本殿が整然と配置されています。舞殿の扁額(ひょうがく)は旧名称の北山神社で、1956年、北山宮に改められました。2024年に改修された真新しい透かしの扉が境内をとり囲んでいます。瀧川寺は北山宮の近くにあり、境内の北山宮墓は宮内庁の管理になっています。

後南朝史彩る自天王の社

(奈良まほろばソムリエの会会員 奥田八尋)